

伊勢神宮外宮の被害と1361年康安地震

The relation of the 1361 Koan earthquake to the damage of Ise Grand Shrine Geku

奥野 真行^{1*}, 奥野 香里²

Naoyuki Okuno^{1*}, Kaori Okuno²

¹三重県, ²なし

¹Mie Prefectural Government, ²none

過去繰り返し発生している南海トラフ沿いの地震のうち、南海地震に対応する東南海地震の存在が十分明らかになっていない1361年(康安元年)の地震に関して、伊勢神宮関連史料から、東南海地震の存在や南海地震との関係について検討を行った。

今回、検討に用いた史料は、『神宮文書』、『狩野亨吉氏蒐集文書』及び『伊勢勅使部類記』であり、いずれの史料にも共通するキーワードは「扶木(たすげぎ)」である。

『神宮文書』は、康安元年の伊勢神宮外宮心御柱朽損等に関する小槻匡遠(南北朝時代の官務壬生家の当主)書状写しや祭主忠直の請文等からなる。前者(康安元年八月三日付け)には「依去六月地震、心御柱傾倚、御束柱顛倒以下事、邂逅之重事」との記述(以下「記述1」)がある。後者(康安元年八月十三日付け)は「外宮心柱傾倚正殿御壁板抜懸御束柱顛倒間事」を表題とする注進状である。永久四年(1116年)の外宮正殿傾倚の際、同年に式年遷宮を控えていたため、正殿に扶木(たすげぎ)を差しして遷宮を待った先例に関する記述(以下「記述2」)等がある。『狩野亨吉氏蒐集文書』には「大宮司長基重言上」を表題とする史料があり、「欲早被経御奏聞不日預勅許外宮正殿扶木間事 右任永久例可奉差扶木哉之旨去月二日言上 地震大風後勅有恐急領勅許可致沙汰」との記述(以下「記述3」)がある。

記述1や祭主忠直の注進状表題から「康安元年六月の地震」により、外宮正殿の「御壁板が抜け懸け」、「御束柱が顛倒する」被害が生じていたことがわかる。記述2や3の「扶木」に関しては、『伊勢勅使部類記』に、永久四年等過去の扶木の例に関する記述がある。その内容から「扶木」とは、外宮正殿の傾倚に伴い、同正殿に副短柱を差し挟むことによって、さらなる危険を回避するための応急的な措置であると考えられる。康安元年にも、外宮正殿において同様かつ急を要するような事態が生じていたことが推定される。

三重県被害想定調査結果によれば、伊勢神宮外宮付近で震度6弱以上となる想定地震は、活断層も含めて、東南海地震または東海・東南海・南海地震同時発生の中の二つのケースのみである。上述の外宮正殿の被害は、これらのいずれかによってもたらされた可能性が高い。

この地震の発生時期に関して、『神宮文書』の記述からは「依去(康安元年)六月地震」とまでしかわからない。しかし、『大日本史料』の康安元年六月の部分を調べてみると、地震の記事が最初に出現するのは、同月二十一日である。伊勢に強震動をもたらした地震が、京都等で無感であり、記事に全く残らないとは考えにくいとすると、外宮正殿に被害をもたらした地震は、二十一日以降に発生した地震であると判断される。

石橋(2002)は、京都の公家の複数の日記における記述内容から、康安元年六月二十四日の南海地震の2日前に東海地震が発生した可能性が高いことを指摘した。一方、穴倉ほか(2008)は、紀伊半島南東部沿岸の生物遺骸群集の高度や年代から、400~600年に一回の割合で起こる連動性地震に伴う異常な隆起イベントを見だし、1361年正平(康安)地震も連動性地震であった可能性について指摘した。

今回発見した伊勢神宮関連史料の地震に関する記述は、石橋(2002)が指摘する可能性をさらに高め、これまでその存在が明らかとなっていなかった、康安元年南海地震に対応する東南海地震の存在を強く示唆するものである。また、穴倉ほか(2008)も考慮すると、康安元年の南海トラフを震源とする地震の発生パターンは「東南海地震 2~3日後南海地震」または「東南海地震・南海地震連動」のいずれかであった可能性がある。

(引用文献)

石橋克彦(2002)フィリピン海スラブ沈み込みの境界条件としての東海・南海巨大地震 - 史料地震学による概要 - . 京都大学防災研究所研究集会 13K-7 報告書, 2002年3月

穴倉正展・越後智雄・前空英明・石山達也(2008)紀伊半島南部沿岸に分布する隆起生物遺骸群集の高度と年代 - 南海トラフ沿いの連動性地震の履歴復元 - . 活断層・古地震研究報告, No.8, p.267-280

キーワード: 康安東南海地震, 伊勢神宮外宮, 扶木

Keywords: Koan Tonankai earthquake, Ise Grand Shrine Geku, Tasukegi